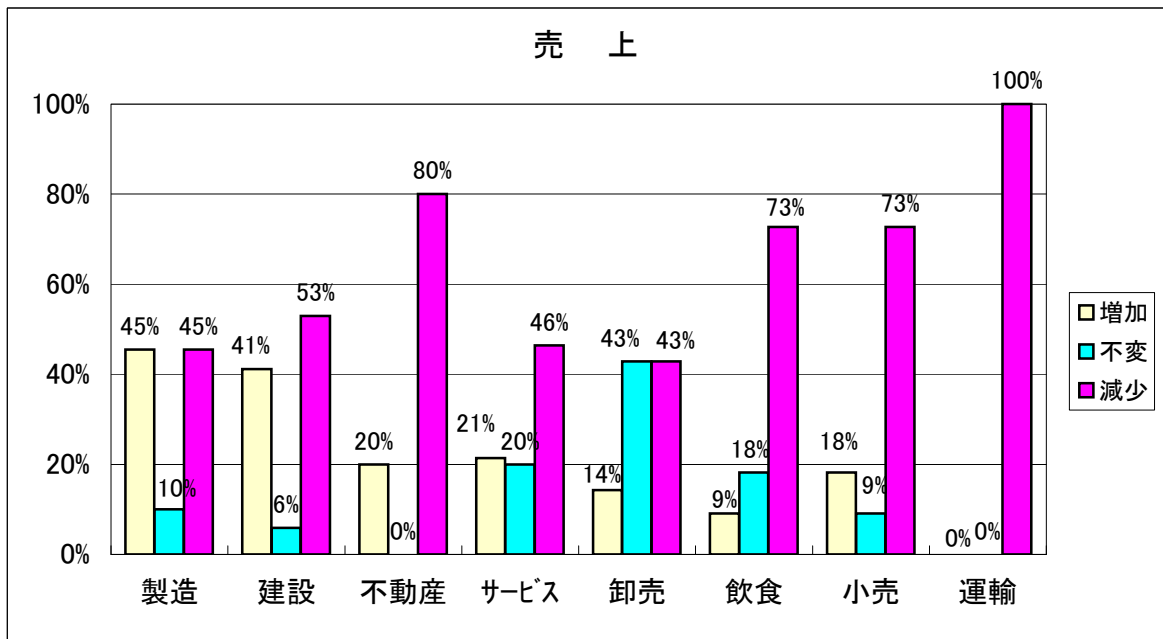


調査1 平成23年1月～6月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と及び今年下期の見通しについて比較表示してある。

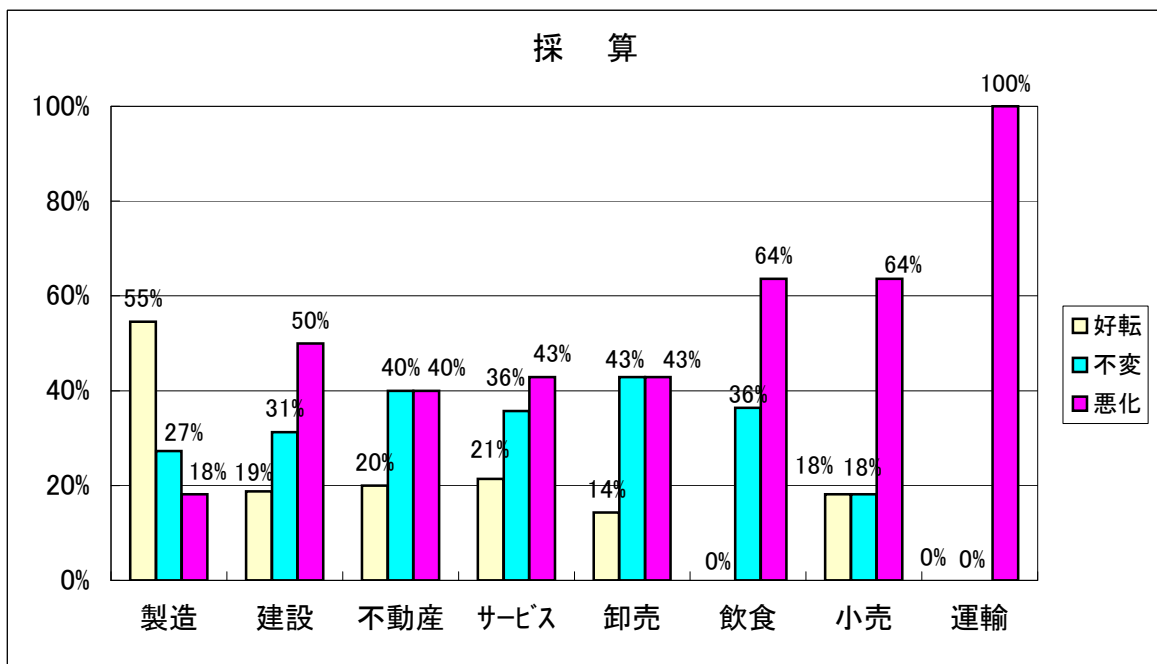
①売上について

運輸業(100%)、不動産業(80%)、飲食業(73%)、小売業(73%)が大きく減少している。前回調査(半年前)に比べても減少傾向が大きくなった。要因としては震災の影響によるものと考えられる。一方、製造業(45%)、建設業(41%)は増加している。



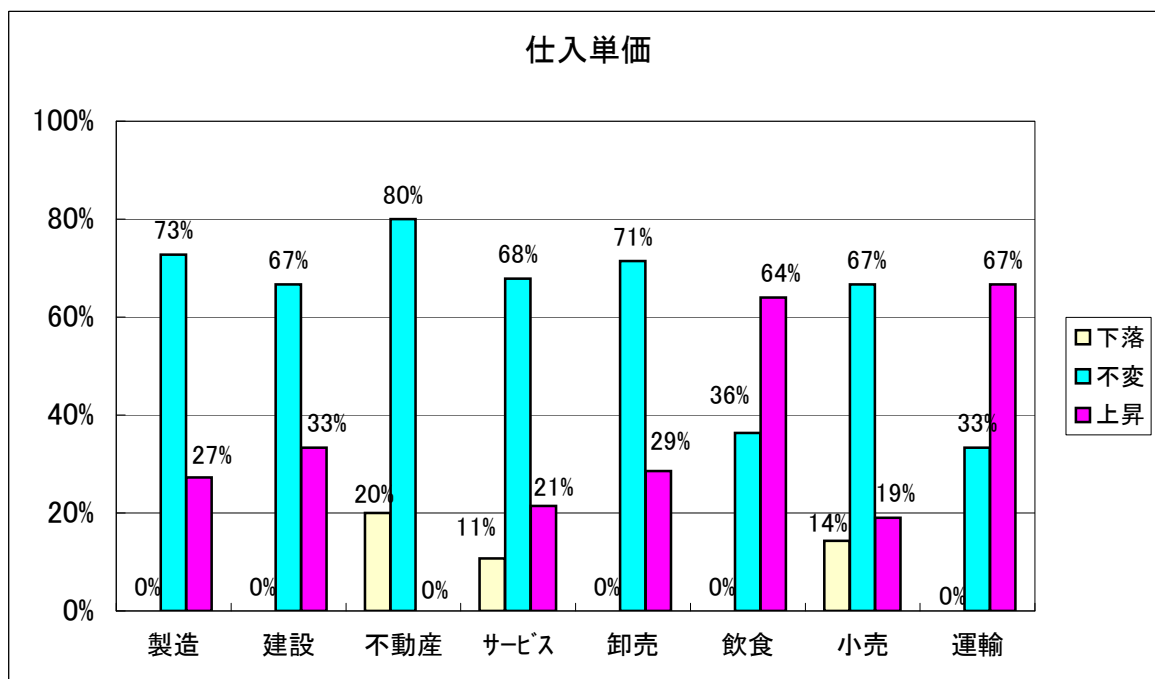
②採算について

採算で見ると、製造業が「好転」55%と好調の傾向にある。「悪化」の傾向が大きいのは、運輸業(100%)、飲食業(64%)、小売業(64%)となっている。



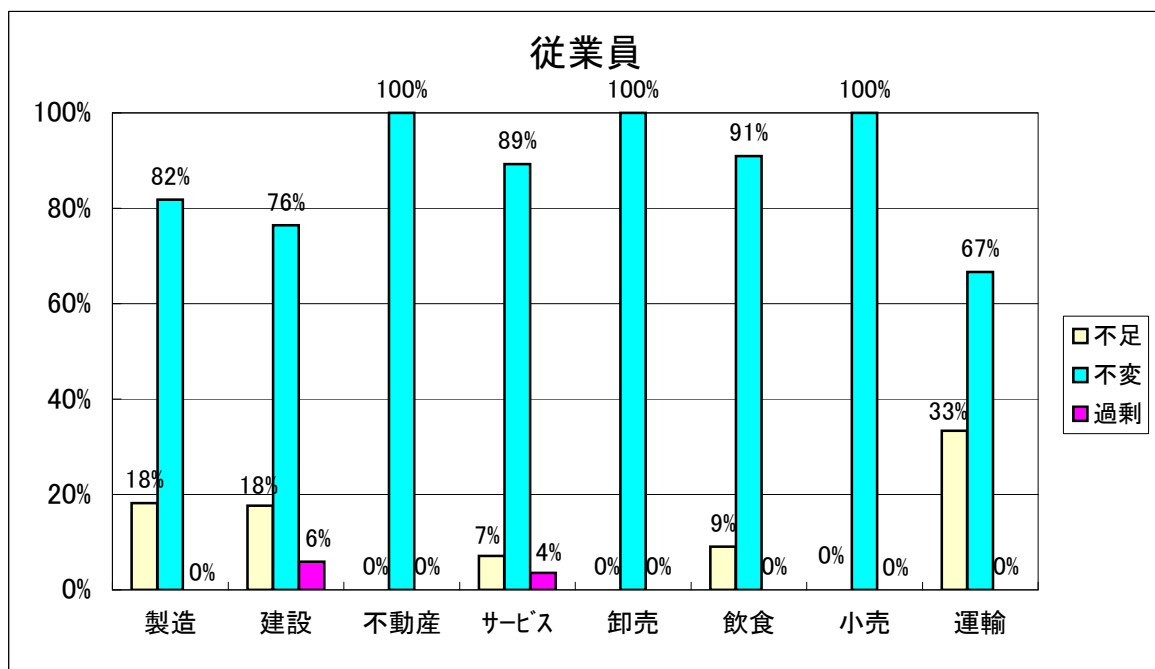
③仕入単価について

仕入単価で、「上昇」傾向が強いのは運輸業(67%)、飲食業(64%)でこの傾向は採算の結果とも同様の傾向がみられた。その他の6業種では「不変」が60%以上であった。

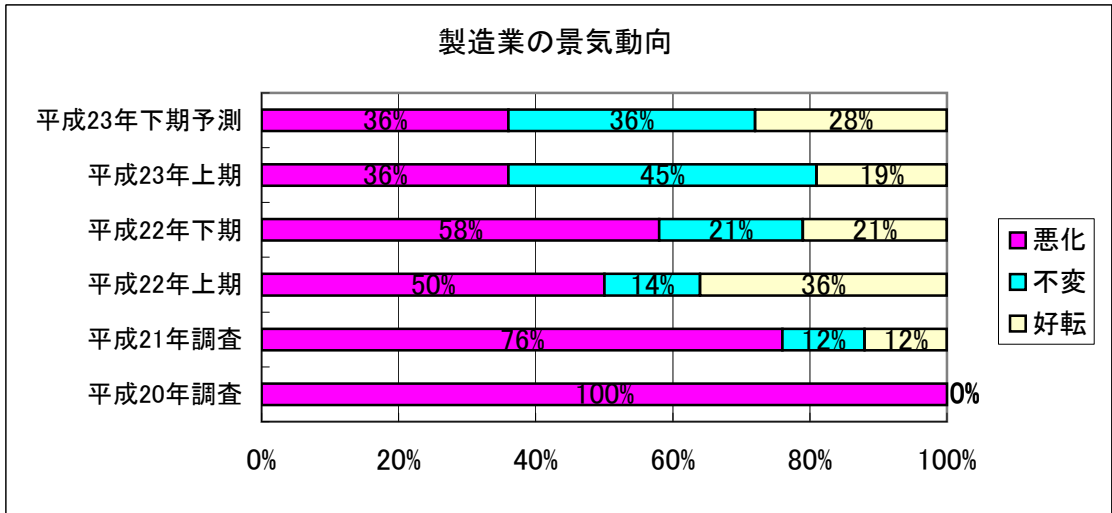


④従業員について

全体で見ると約88%が「不変」と回答し、前回調査と変化はなかった。「不足」が多いのが運輸業(33%)、建設業(18%)、建設業(18%)となっている。

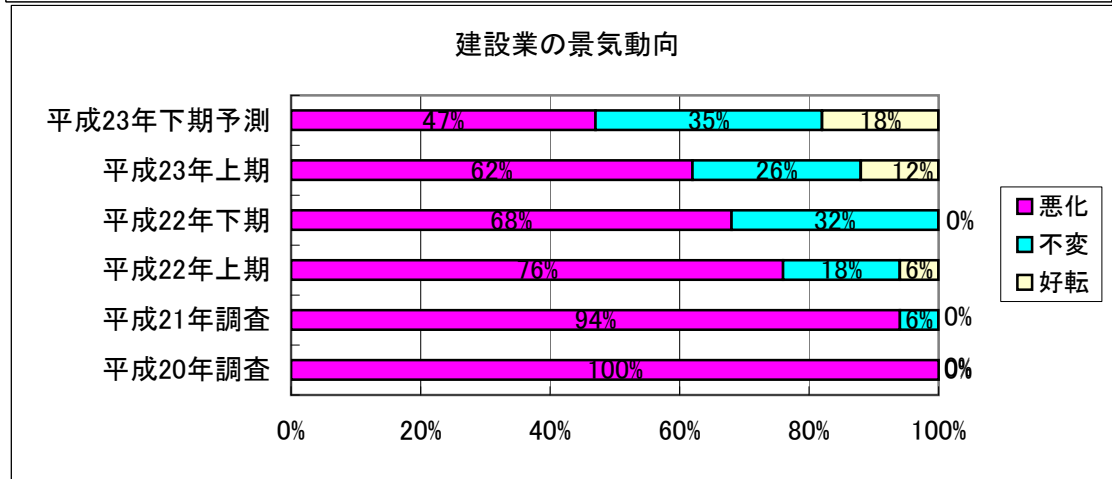


⑤業界の景気動向について



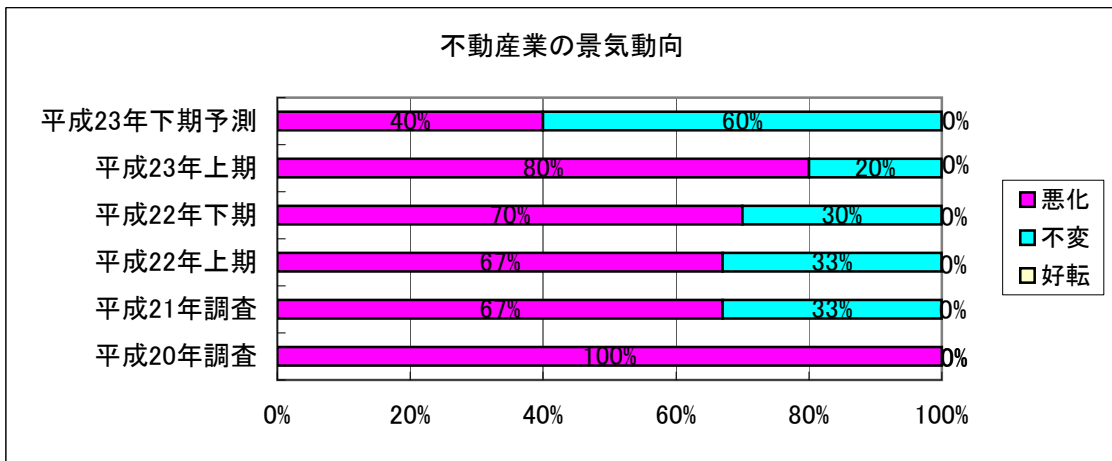
■製造業

平成23年上期では、19%の企業が「好転」45%「不変」と回答し、今年下期の見通しでは28%の企業が更に「好転」と回答している。徐々に明るい兆しがみえている。



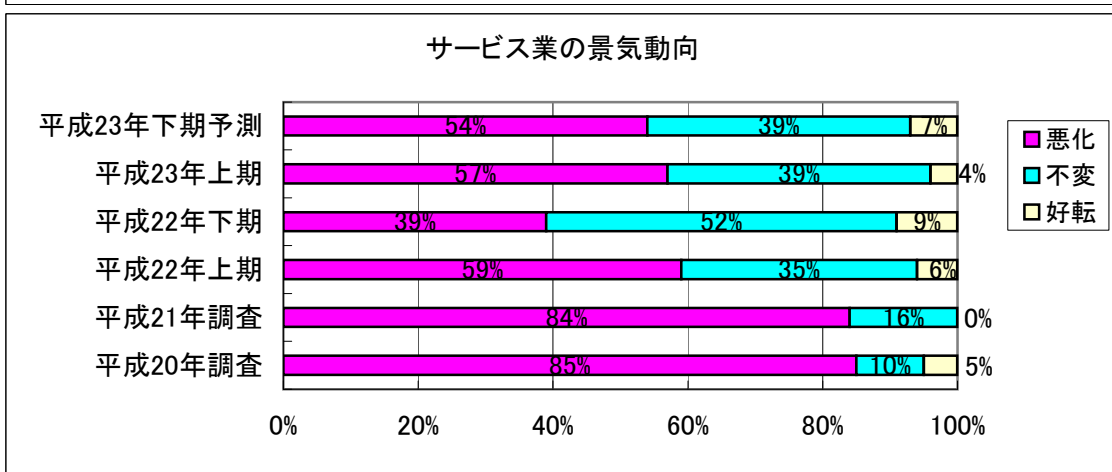
■建設業

平成23年上期では、「好転」が12%と改善の兆しが見えている。「悪化」傾向は徐々に少なくなっている。平成23年下期では、「好転」が18%となっている。



■不動産業

平成23年上期は、「悪化」が80%と前回より10%増えている。平成23年下期予測では、「悪化」が40%と減少しているが依然として厳しい状況である。

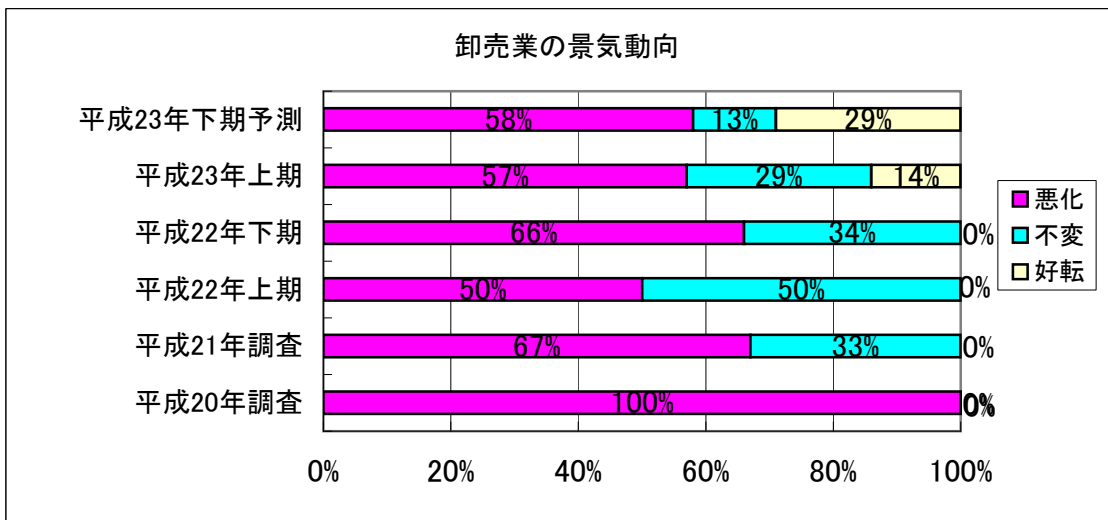


■サービス業

平成23年上期では「好転」が4%、「不変」が39%で、「悪化」が57%と前回調査より悪化傾向になっている。

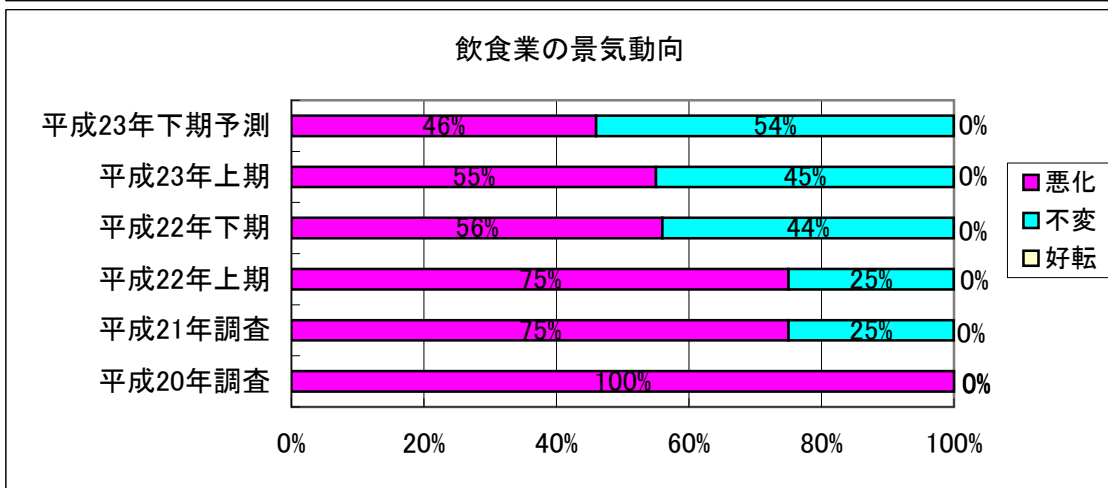
■卸売業

平成23年上期は「好転」が14%、「不変」が29%となっている。平成23年下期では、「好転」29%で徐々に景気動向は改善している。



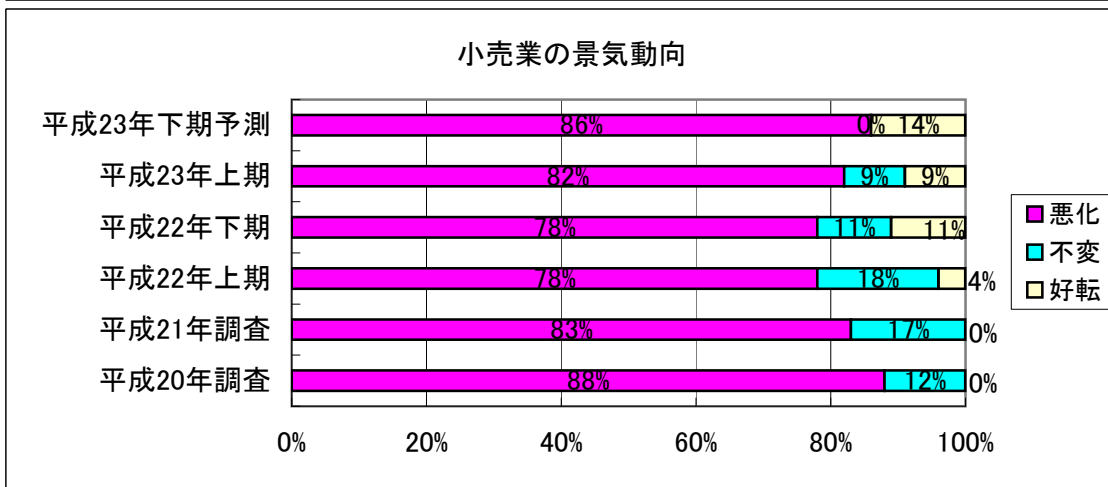
■飲食業

平成23年上期では「悪化」が55%で、前回調査から変化はみられない。依然として先行きが厳しい状況である。



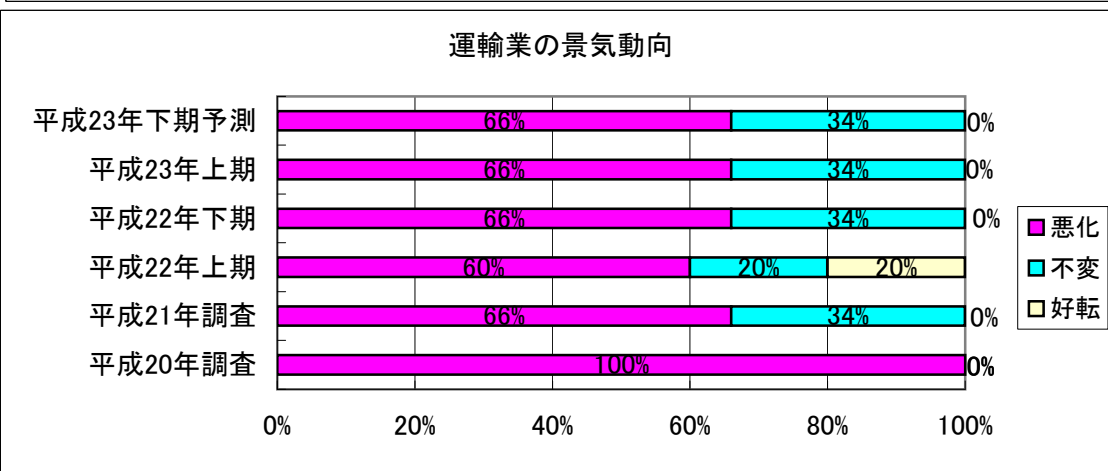
■小売業

平成23年上期「悪化」が82%となっている。個人消費の低迷により、依然として厳しい景気状況が続いている。



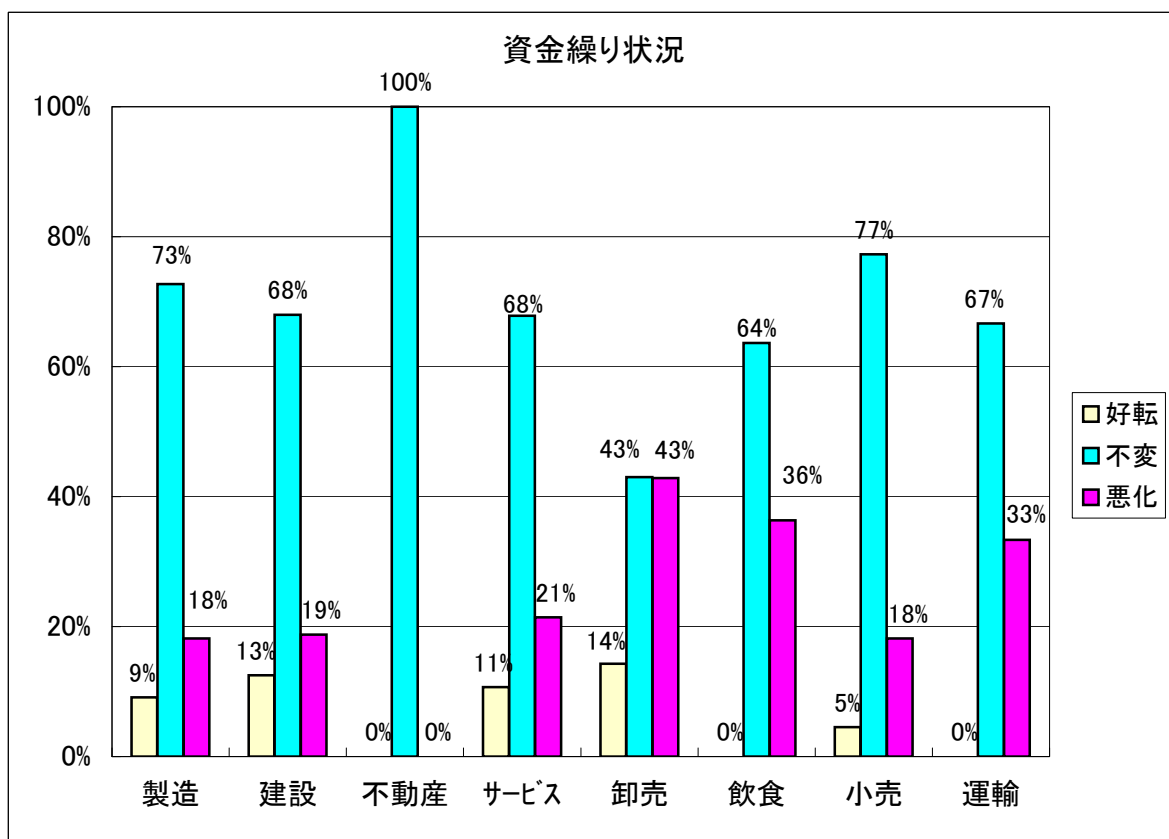
■運輸業

平成23年下期は「悪化」66%と前回調査と同じで、依然として原油価格の高騰、競争激化が響いている状況である。



⑥資金繰りについて

全体で見ると70%の企業が「不変」と回答している。「悪化」が著しい業種は卸売業(43%)、飲食業(36%)であった。また、「好転」しているのが卸売業(14%)、建設業(13%)、サービス業(11%)であった。



⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が44.1%、「融資無し」が23.4%、「厳しい」が20.3%、「緩やか」が12.2%であった。「厳しい」との回答が多かった業種は運輸業で67%であった。

